

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人 友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	静岡県沼津市西島町8番25号		
自己評価作成日	平成30年5月7日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

廊下歩行と運動のおかげで皆様、お元気で過ごしています。最近では文字を書いたり計算問題等も行ってまいります。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2271100832-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2271100832-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき利用者のありのままを受け入れ、職員は利用者によって支えられて仕事を得ているという関係を理解し、利用者により寄り添って支援している。理事長やケアマネジャーは厳しいことを職員に求めたり苦言を呈するが、明確な理由があつてのことであり、職員も理解している。ミーティング時に職員同士や理事長、ケアマネジャーに対して気づいた点や自分の考えをオープンに話せる関係性が出来ている。また、利用者のQOLが低下しないように体操や散歩に力を入れ、継続しているので利用者は皆さん元気に生活されている。利用者の喜ぶ顔、楽しむ様子を家族に見てもらえるように外出支援を積極的に行っている。事業所は地域の行事にも参加し、施設の流しそうめんや餅つき等の行事には地域の方が準備から手伝ってくれ、賑やかに開催されている。防災訓練などでも地域との協力体制が構築さ
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30 年 6 月 24 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認め合い、支え合い、感謝と笑顔を運営理念とし、実践に取り組んでいる。	入社後の研修と日常の実践の中で折りにふれ職員に理念について話し合っている。半年毎、理事長と面接を行って、理念の再確認と個人の目標の達成度をチェックしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の情報を常に確認し、出来るだけ参加・協力している。 ホームの行事については地域の方々を招待している。	地区の自治会に加入し、ゴミ出し当番や地域の清掃に必ず参加している。施設の行事の一つである「流しそうめん」には地域の行事の一環として町内のテントを借り、張るのも地域の住民が協力してくれる。近くの保育園児も学習発表の場として来訪してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の組長や近所の方々に出席いただき相談を受けたり相談をしたりしている。 町内のお祭りにも全面協力し、お神輿や踊りの休憩場所としてホームの空きスペースを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのいろいろな意見に対してホームの改善やケア改善につながるようスタッフ間で意見交換をしている。また、意見箱を玄関に設置して意見をいただくようにしている。	利用者家族も毎回多数参加してくれ、地域の方々も幅広く参加され、意見も活発に出る。地域包括支援センターや市の担当者も出席しているので問題点をその場で解決できる。また、グループホームのデイサービス利用者の家族が参加してもらえるように年2回は休日に開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員に運営推進会議に出席していただいている。また、書類等は管理者が直接届けるようにし、担当職員とかかわるようにしている。	市の担当者が積極的に運営推進会議に参加している。会議の議事録を後日、利用者と一緒に外出を兼ねて市に届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をなると具体的な行為の項目を貼り、職員研修にも組み込まれている。 日々の起きた事例や日々の小さなことにも目を向け、その都度、指摘し、対応の確認をしている。	身体拘束はしない。また、拘束しないように日頃から利用者の様子を観察し、体操や散歩をすることでQOLの維持に努めている。また、精神的に利用者に安心感を持ってもらえるように常に寄り添うケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム手塚)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において研修を行っている。職員の不満やストレスをためないよう、理事長と話し合いの機会をつくっている。月に1度のミーティングにおいて、利用者様からの意見を聞き、権利を守る為の話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に実子がいない方が、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様に十分説明を行っている。不明な点はないかお聞きし安心・納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の折に意見を伺っている。面会時には必ずお声を掛けさせていただき近況報告をし、意見をいただいている。玄関には意見箱を設置し、施設運営やケアに役立っている。	家族の面会の時に利用者の日頃の様子を報告し、意見や要望を伺っている。遠方の家族には定期的に電話で連絡を取って家族の意向を伺っている。家族は意見や要望を出してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、スタッフからの意見を聞き、皆で話し合っている。管理者は現場の関わり、職員との意見支援の場を作っている。	月1回のミーティングを行っていて、その時に職員全員に日頃のケアで気になっていることを出しあって、皆で解決策を話し合う習慣が身につけているので共通の理解が得られる。新人職員でも自分の意見を言う習慣が身につけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングは理事も参加しており、現場の意見を聞く機会を作っている。給与・賞与の明細は直接理事から受け取るようになっており、話し場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、参加をすすめている。研修担当者がおり、月1回のペースで施設内研修を行っている。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		

静岡県(グループホーム手帳)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	外部研修の機会などを通じて、グループホームの南部地区の会議に参加を通して他の施設のスタッフとの交流・意見交換している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご本人様とご家族様と面会し、総合的な情報を得ることで入所後の不安をなるべく解消できるように努めている。ご本人様にご納得するまで話を聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面会し、状況や不安な点等細かなところまで情報を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面会し細かなところまでの情報を得て、またご希望を伺いながら、それもとにスタッフ間で意見交換し、サービスの見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先ではなく、何をすることも利用者様と共にいき、同じ時間を過ごすよう努めている。また、ミーティングにも参加していただき、意見を聞いたり昔話を聞いたりしている。ミーティングは全員参加の中で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化等は、すぐにご家族様に報告説明し、問題を共有することにより共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や生まれ育って過ごされた思い出の場所の話を伺ったり、場合によってはその場所を訪ね機会を作っている。ご本人のご希望でお墓参りにも付添っています。	家族、知人の面会の時には利用者の思い出のものや場所の話をして話のきっかけを引き出す支援をしている。帰宅願望の強い利用者と共に利用者の家を見に行ったり利用者に納得してもらえる支援を心がけている。	

静岡県(グループホーム手塚)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの自席の配置に配慮したり、折り紙や台所等を一緒にやりましょうと声を掛け関わり合うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先に、時には利用者様と一緒に訪問したり、ご家族様に近況を電話にて聞かせていただく機会をもうけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を大事にし、ご本人様のご希望に伺い、それに沿ったケアが行えるように努めている。	入居前に本人や家族から思いや意向を聞き、入居後も面会時に家族に利用者の様子を報告し、家族の意見も聞き、利用者の思いを大切にしている。今年の4月からお花のお稽古に月2回職員が付き添い通っている。習ってきた生花を居間に飾るのを楽しみにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を大切にし、ご本人様・ご家族様の情報を通じて把握すると共に実践し希望に添える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりを観察し、わずかな変化にも気づくよう努めている。職員間の申し送りにより情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、ご本人様・ご家族様の思い・意見について話し合い、ケアプランに取り入れている。	月に1回のミーティングの時にカンファレンスも行っている。日頃の様子を報告し、医師や看護師に相談しながら家族にも報告して計画を立てている。日課の朝の体操の内容について併設施設に来ている療法師にアドバイスをもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの生活記録に記入し、職員間で申し送りをを行い情報を共有している。		

静岡県(グループホーム手塚)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズによって、外食に行ったり散歩に行ったり、お買い物に出掛ける等、支援している。また、ご家族様のご希望に答えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、草取りやゴミ当番などに参加している。 地域のお祭りやイベントに参加し地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に説明し、納得された後、施設の提携医院を主治医とし毎週木曜日に往診に来てもらっている。必要な時は電話にて助言・支持をもらい、検査などに付添い、適切な医療を受けられるよう努めている。主治医を2ヶ所に増やしてご家族様に選んでいただけるようにしました。	協力医を2ヶ所にして家族に説明して選択してもらっている。協力医は定期的に往診に来てくれ、緊急時もすぐに対応してくれる。歯科も必要があれば往診してくれる。年に一度、口腔ケアの点検をしてもらい、アドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が必要に応じて関わってくれている。 提携医院には、当施設の担当看護師がおり必要時には助言・指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医院との連携は十分に務めている。 他医院を定期的に医療処置を行っている方にも十分連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合、またその可能性がある場合は前もってご家族様のご希望・ご要望を伺い、それに沿った対応をしている。また、わずかな変化であってもご家族さんに状況を報告している。	入居時に説明し同意をもらっているが、変更があるので、年に1度本人家族に意向を確認し、書面に記録している。重度化、終末期になった場合、家族と職員、医師と話し合いを行って支援している。2年半程ターミナルはないが、職員は利用者を家族の一員と見ているので十分な支援はできると言っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、外部の救急訓練に参加したり、その都度管理者からの指導を受けている。		

静岡県(グループホーム手塚)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に定期訓練を行っている。地域との協力体制も確立しつつある。3ヶ月に1度、3階への避難の訓練を実行している。地域の避難訓練には必ず参加し町内の方々にホームがある事を知ってもらい協力をお願いしている。	年2回、消防署立ち会いで訓練を実施し、反省点の指摘を受けて、次の訓練に活かしている。海に近いので津波対策で3ヶ月に一度、3階へ避難する訓練も行っている。	夜間想定訓練を考えているがまだ実施されていない。職員からも不安だという声があるので、早急の実施して下さい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守る声掛け・対応を行えるようその都度、管理者が指導をしている。ミーティングの機会に事例を挙げて研修を行っている。	特にトイレ介助や入浴介助の声かけや対応には気をつけている。必ず、本人の気持ちを確認して、利用者の思いにそった対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でご希望を引き出したりまた、ご希望を言いやすいような言葉で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで日々毎日過ごしていただいている。決して急がせることはしない。ご本人様のご希望に添えるようにご希望を伺い外出・外食も計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ずつ、理容・美容のボランティアの訪問がある。髭剃りや髪の毛を整えるなどの声掛け・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日は順番にお好みの献立を伺い、一緒にお買い物に行き、一緒に調理をしている。	平日は栄養士が考えたメニューを1階の厨房でデイサービス等と同じ内容で作ったものをいただいている。日曜日は利用者の希望の献立を職員と一緒に作り、片付けも一緒に行っている。利用者ができることは継続して行ってもらい、急かさず、個別対応をするに気遣って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量は毎回チェックし、記録している。10時・15時のお茶の時間は、ご本人様のご希望を伺っている。栄養士が作成した献立をもとに食事をお出ししている。		

静岡県(グループホーム手帳)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員に声を掛け、口腔ケアを行っている 自立の方は、声掛けはしますが、ご本人様のペースで行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排便がいつからでていないかの確認もおこなっており、腹部マッサージをしたり、水分をとっていただいたり自然排便が出来るように支援している。	排泄前の利用者の行動を常に気をつけ、本人がトイレに行きたいと思う気持ちを大切にしている。現在、紙おむつの利用者はいない。朝の体操や散歩等で体を動かすようにし、自然に排便できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをしている。 水分を取っていただいたり、体操をしたり、腹部マッサージを行うなどし、なるべく下剤に頼らず自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けはしているが、ご本人様の希望を伺いながら、入浴日・入浴時間を決めている。	入浴は基本は週に2回であるが、入浴したいという希望があれば対応している。一人ずつお湯は替え、ゆったりと入浴してもらえるように心がけている。着替えや入浴を嫌がる利用者には言葉かけの仕方を替えたり、タイミングをずらす等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し、個々の習慣に応じて対応している。体調の変化にもすぐに気付くよう観察し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。ご希望者には湯たんぽを使用。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診断書・薬剤情報はスタッフがすぐに確認できるように置いている。5名の方に居宅療養管理指導が付いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る事・出来そうな事を見つけて日々の生活に生かせるように支援している。 ご自分の役割をもって意欲的に取り組んでいる。		



静岡県(グループホーム手摺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のご希望を伺いながら、散歩・ドライブ・外食・花見等を支援している。 ホームの行事にはご家族様や地域の方々にも参加していただいている。	利用者の希望を一番に考えて支援している。 特に花のきれいに咲く季節にはデイサービスの車の利用が可能ならば、その日のうちに外出の計画をして臨機応変に実施している。利用者も職員も出かけ慣れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の時に予算を説明して、その範囲内でお好きなものを選んで購入したり、外食したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればその都度に応じている。 家族様からプレゼントが届いたりすると、利用者様自らペンを手に取り家族様宛にハガキを書く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をいつもテーブルに飾っている。 居室にこもりっぽくならないように声掛けをし、常に利用者様はホールに集まり、テレビをみたり・歌を歌ったり雑談したりされている。	天気の良い日は窓を開けて風を通し、布団をほして、普通の家で行われている生活感を大切にしている。臭いについては全職員が気をつけている。利用者は午睡で部屋に行く以外は居間でTVを見たり職員と話をしたり、絵を書いたり思い思いに好きなことをして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの自席の配置に気を配り、気の合った利用者様同士で話しが出来たり、ぬり絵をしたりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも昔から使っていたタンスやテレビなどを配置している。 食器も個々の物を使用している。	各居室のカーテンはそれぞれ色が違って、以前自宅で使っていたタンスや仏壇を持ち込まれている。また、化粧品と鏡がタンスの上に置かれている部屋もある。掃除が行き届いていて、きれいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況に対応した居室の配置としている。 出来ることはやっただき、立位が安全に出来よう環境づくりにも工夫している。		